

Goffman.E とその理論

1 . Goffman(ゴフマン)

Goffman,Erving(1922-82)カナダ出身のアメリカの社会学者、社会心理学者。カリフォルニア大学教授(1962 来)、ペンシルヴェニア大学教授(1968 来)。アメリカ社会学会会長。(1982 年)演劇論的アプローチの提唱者。ミクロな日常生活状況における人々の関わり方(出会い、集まり、会話などの対面的相互行為)に焦点をあて、儀礼的無関心、役割距離、印象操作などの概念を分析用具として具体的かつ挑戦的に解明し、現代の多元的自己を鋭くえぐり出した。『日常生活における自己提示』(1956,1959)。『出会い』(1961)。『儀礼としての相互行為』(1967 年)。『フレーム・アナリシス』(1974)など。

2 . 社会学と Goffman

社会学：社会と個人の関係を明らかにすること(主要な関心のひとつ)

2 つのパースペクティブ

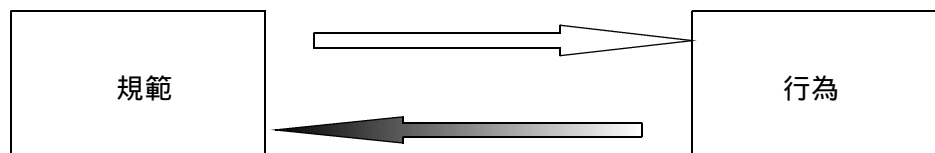
規範的パラダイム...社会が個人を規定する要因を重視

ex.デュルケム、パーソンズ「機能主義理論」etc

解釈的パラダイム...社会的世界における個人の解釈過程(主観性)を重視

ex.ウェーバー、ミード、シュッツ「現象学的社会学」、ブルーマー「シンボリック相互作用論」、ガーフィンケル「エスノメソドロジー」etc

ゴフマンは、一般的下図の と の中間から 寄り。(船津・宝月 1995)



3 . ゴフマン略歴(フィールドワークを中心に)

年代	活動
1945	カナダのトロント大学を卒業、シカゴ大学大学院へ進学(シカゴ学派第 4 世代)
~ 1953	エディンバラ大学社会人類学科。 「島のコミュニティにおけるコミュニケーション行為」でシカゴ大学から博士号取得
1954 ~ 57	アメリカ合衆国メリーランド州国立精神衛生研究所社会 - 環境研究実験室客員研究員。 付属のいくつかの施設で病棟内の行動についての短期的な研究を行う。
1955 ~ 56	ワシントンの連邦政府経営の聖エリザベス病院で、入院患者の社会的世界を知ることがを目的として、フィールドワークを実施。『アサイラム - 施設収容者の日常世界』

4 . ゴフマン業績(主著)

年	業績
1959	The Presentation of Self in Everyday Life (石黒毅訳『行為と演技 - 日常生活における自己呈示』誠信書房,1974年)
1960	Asylums: Essays on the Social Situation of Mental Patients and Other Inmates (石黒毅訳『アサイラム - 施設被収容者の日常生活』誠信書房,1984』)
1961	Encounters: Two Studies in the Sociology of Interaction (佐藤毅・折橋徹彦訳『出会い - 相互行為の社会学』誠信書房,1985)
1962	Behavior in Public Places: Notes on the Social Organization of Gatherings (丸木恵祐・本名信行訳『集まりの構造 - 新しい日常行動論を求めて』誠信書房,1980)
1963	Stigma: Notes on the Management of Spoiled Identity (石黒毅訳『スティグマの社会学 - 烙印を押されたアイデンティティ』せりか書房,1970)
1964	Interaction Ritual: Essays Face-to-Face Behavior (広瀬英彦・安江孝司訳『儀礼としての相互行為 - 対面行動の社会学』法政大学出版局,1986)
1965	Strategic Interaction
1966	Where the Action Is: Three Essays
1967	Relations in Public: Microstudies of the Public Order
1968	Frame Analysis: An Essay on the Organization of Experience
1969	Gender Advertisements
1970	Forms of Talk

5 . シカゴ学派

19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて、アメリカ社会では、急速な産業化と都市化の波にさらされ、従来のコミュニティ分権型社会が崩壊。大企業体制、大量の移民流入、労働問題、都市問題等々によって彩られる新しい大都市・産業型社会が出現した。シカゴは、こうした社会状況を典型的に表す都市であった。劇的な発展を遂げたが、同時に、ヨーロッパからの移民をはじめ膨大な流入人口を抱えて、人種対立、労働争議、犯罪、スラムなど様々な社会問題が激発した。発生した社会問題に対処可能な思想と科学、新たな社会秩序の構築が強く求められた。

シカゴ学派はシカゴ大学社会学部（創設 1892）に集まった社会学者たちによって形成された。社会過程を社会学の中心課題と見る点においてドイツ社会学の影響を受けているが、その研究方法を実証的・実践的な方法に求めた点においてアメリカ的であり、画期的であった。この実証的・実践的な方法は第 2 世代の社会学（1920-30 年代の都市社会学）に華々しく開花。優れた成果をもたらし、アメリカ社会学の伝統として継承された。

世代	研究者
第 1 世代	A・W・スモール、G・ヴィンセント、W・I・トーマス、C・R・ヘンダーソン
第 2 世代	R・E・パーク、E・W・バージェス
第 3 世代	H・ブルーマー、L・ワース、E・C・ヒューズ、S・ストゥーファー
第 4 世代	H・ヘッカー、A・L・ストラウス、E・ゴフマン

6. ゴフマンの理論 (ダイジェスト)

共在への着目

共在 (co-presentation) = 人々がともに居合わせる状況

ex) ○月○日、C オフィスでのD 会議

会話や一緒に何かをするといった「焦点の定まった相互行為」だけでなく、視野に入る他者を一瞥するだけといった焦点の定まらない「相互行為」を含む。Goffman 曰く、「話をやめることができても、身体表現によるコミュニケーションはやめることができない。」

ドラマトゥルギー

人間が行為し自己を持つためには、必然的に演技をしなければならない

ex) 人は、買物客、職場での地位、家族内での父親や母親、結婚式の来賓などの状況においてその役割を演じるためには、自分なりに演出し、表現をしなければならない

役割距離

典型的な役割とそれを演じる人の実際の役割遂行行為との間に観察されるギャップ
自己とは、その演出の中に現れる。役割距離によって表現される。

フレイム

状況を理解し、その中でとるべき行動を認知したり選択したりする枠組み

基礎的フレイム = ある集団の枠組みの枠組み。信念体系。コスモロジー。

日常的状況は、基礎的フレイムから派生したり、変形したりしたものであり、基礎的フレイムに支えられて、いま起こっていることが何かについての基本的認識を与えてくれる。

(1) 転調 (keys) されたフレイム

転調 = 参加者すべてがその変形を認めている

ごっこ、コンテスト、儀式、リハーサル、再規定

ex) 遊び、演劇は、基礎的なフレイムに意味づけられた現実をごっこに転調

(2) 偽造 (fablication) されたフレイム

偽造 = 一部の参加者しかその変形を認知しておらず、それによって他の参加者が欺かれるような場合

ex) 八百長

フレイムを巡るトラブル

基礎的フレイムは、説明できない出来事、一見不可能な曲芸的行為、へま (フレイムからの逸脱)、相異なるフレイムの葛藤による緊張により、その境界を危うくされる危険性を抱えている。

相互行為秩序 = 人々に対していかに振る舞うか（自己を提示するか）を規定すると同時に人々の振る舞いを通して実現される秩序。

「すべての状況にあてはまる行為の規則は、『状況にふさわしい』行為をせよ」

参考文献・参照サイト

秋本律郎, 吉沢四郎, 正岡寛司, 長田攻一 (1990) 社会学的世界の呈示. 学文社, 東京

天田城介 (1998) 相互作用秩序と儀礼論をめぐり一考察. 立教大学社会学部研究紀要. 応用社会学研究. 40:135-150 (URL) <http://www2.kumagaku.ac.jp/teacher/josuke/bk/bpp5.htm>

須藤修司 (1985) 『フレイム・アナリシス』について. 明治学院大学社会学専攻紀要 9:97-108

浜嶋 朗, 竹内 郁郎, 石川 晃弘 (編集) (1997) 社会学小辞典. 有斐閣, 東京

船津 衛, 宝月 誠編 (1995) シンボリック相互作用論の世界. 恒星社厚生閣, 東京

那須 寿 (1997) クロニクル社会学. 有斐閣, 東京

ウィキペディア: シカゴ学派

http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%82%AB%E3%82%B4%E5%AD%A6%E6%B4%BE_%28%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E5%AD%A6%29